



非常に驚いたとき、じゅ命が縮まるって本当なの

ものすごく驚いたことを表現するための表現法

だれかに驚かされたりして、非常に驚いたときには、びっくりしたり、ドッキリしたりして、心臓が止まるような気がするがあります。

また、もともと心臓の血管などに病気のある人の場合、あまり驚いたり、おこったりすると、発作を起こして、命がなくなることもないとはいえません。

しかし、何かに驚いたときに、だれもが死んでしまうのであれば、地球上から、人類がいなくなってしまう。

それに、びっくり箱を作ったたり、スリルのある映画をつくったたりすることも、犯罪になってしまいます。

ですから、非常に驚いたときに、「じゅ命が縮まる」というのは、「じゅ命が縮まるほどびっくりした」と、ものすごく驚いたことを表現するための、一つの表現法なのです。

すべての生き物にはじゅ命がある

じゅ命というのは、「何才くらいまで生きられるのか」ということで、今、生まれたばかりの赤ちゃんが、この後、何年生きられるかを、計算して出した年数のことです。

正しくは、「0才児の平均余命」といいます。

平均余命は、アメリカ人ならアメリカで、日本人なら日本で、それぞれの国で計算されて出されます。それによると、日本の「0才児の平均余命」は女の人でおよそ82才、男の人でおよそ77才と、どちらも世界一長く、日本人は世界一長生きの人間といえます。

(監修・保志 宏)

